

令和7年度 2年4組（サイエンスⅡ）1学年（総合的な探究の時間）

3月10日(火) 「令和7年度 福崎・播磨福崎高校 探究発表会」

1年生は1年間の探究活動、2年4組は1年間行ってきた研究の集大成を発表しました。前日までポスターの作成や発表練習に取り組み、ドキドキしながらスタートした発表会の序盤は、少し緊張している様子が伺えました。回数を重ねるにつれて、聴衆を引き付けるコツを掴み、質問の回数も増え、会場の雰囲気も活発になってきました。また、神戸大学から伊藤真之先生、岡山大学から野沢徹先生、兵庫県立大学から藤澤浩訓先生、小橋昌司先生、関西福祉大学から原弘輝先生にお越しいただき、最後にはご講評をいただきました。「これまで調査・研究してきたことを、自分の生活に落とし込み、大事だと分かったことがなぜ実現できていないのか、そのような視点を持ち次の課題に取り組んでほしい」と、次のステージへ向けてのお言葉をいただきました。





【生徒の感想】

- ・ 何度も内容が変わったりして、研究の期間が限られてしまいましたが、自分たちの納得いく研究ができて満足です。このような機会がないとここまで突き詰めることもなかったので、新しい知識や技術が身につけてよかったです。(2年生)
- ・ これまで本格的にプログラミングに触れたことがなかったので、探究活動の過程で行き詰まることもありましたが、最終的にここまでたどり着けてよかったです。今後もこの技術をいろいろな面で活用していきたいです。(2年生)
- ・ 「～が分かった。」で終わるのではなく、もっと深く調査し、その過程の中で生まれる「なぜ？」を大切に、来年度の探究活動は取り組みたいです。(1年生)
- ・ 発表の際、身振り手振りが大きく、聴き手とのアイコンタクトを意識している班の発表は内容が理解しやすく、文字の色やフォントにメリハリがあるポスターはとても見やすかったです。次回はそれらも意識して発表したいです。(1年生)